

経済・金融 フラッシュ

【マレーシアGDP】 予想外の低成長

経済調査部門 研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1824 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

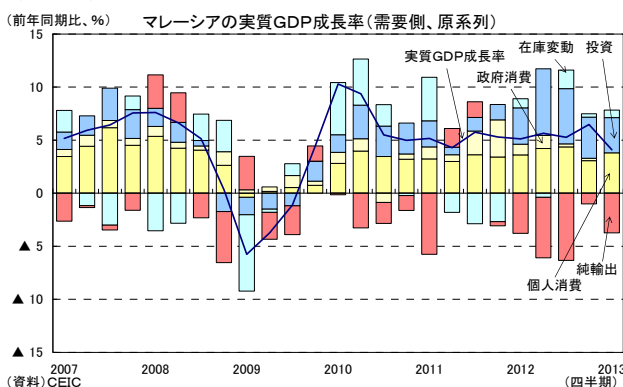
1. 現状: 予想外の4%前半

マレーシア統計庁(DOSM)は5月15日に2013年1-3月期の国内総生産(GDP)を公表した。実質GDP成長率は前年同期比(原系列)で4.1%の増加となり、前期の前年同期比+6.5%より大きく減速、2009年7-9月期以来の低い成長率となった。

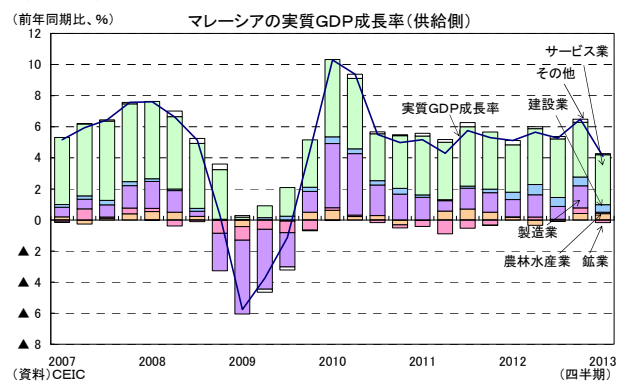
成長率の内訳を需要項目別に見ると(図表1)、成長率低下の主因は純輸出であり、内需については、前期と比較してもほぼ同程度の伸び率を確保していることが分かる。個人消費は前年同期比+6.1%(前期:同+4.9%)と加速、投資は前年同期比+13.2%(前期:同+16.0%)と減速したものの、5四半期連続の2桁成長を記録している。投資の内訳を見ると民間投資が前年同期比+10.9%(前期:同+20.1%)と大幅に減速したが、公共投資が前年同期比+17.3%(前期:同+12.9%)と加速したために、全体の落ち込みを限定的に留めている。純輸出については、輸出が前年同期比▲0.6%(前期:同▲1.6%)と3四半期連続のマイナス成長を記録する一方で、輸入が前年同期比+3.6%(前期:同▲0.6%)と加速したために、純輸出の成長への寄与度は▲3.7%ポイント(前期:同▲1.0%ポイント)とマイナス幅が大きく拡大した¹。

供給側を見ると(図表2)、1-3月期は、製造業が前年同期比+0.3%(前期:+5.7%)と急減速、また、鉱業が前年同期比▲1.9%(前期は+4.2%)とマイナス成長に転じており、落ち込みが目立つ。その他の業種では、建設業が前年同期比+14.7%(前期は同+17.8%)、サービス業が前年同期比+5.9%(前期は同+6.4%)と比較的高い成長は維持しつつも、前期対比では若干鈍化した。農林水産業のみ前年同期比+6.0%(前期+5.6%)となり、わずかに伸び率を高めている。

(図表1)



(図表2)



¹ 報道によれば、ゼティ総裁は輸入の増加について、飛行機の購入による一時的な押し上げであると及言している。

